



うすき人の あしあと

Vol.10

「縮緬本」

歴史と文化の薫るまち白杵。白杵市内の文化財など、

うすきの先人たちの足跡をシリーズで紹介します。

日本の伝統的な製法で作られる「和紙」。材質や製法によって、和紙にはいろいろな種類があります。

今回紹介するのは、「縮緬本」と呼ばれる本です。縮緬は表面に凹凸がある絹製の織物ですが、縮緬本は、もんだり伸ばしたりすることで縮緬に似た質感を和紙で再現しています。日本の昔話「桃太郎」「花咲か爺さん」「舌切り雀」などを英語、スペイン語などに翻訳したもので、ほとんどが輸出や欧米人向けの土産用に作られ、明治10年代から20年代にかけて、大変好評を博しました。白杵市が所蔵する縮緬本には、最後の白杵藩主稲葉久通の長男であった順通の蔵書印「稲順」が押ししてあることから、稲葉家の蔵書だったことが分かります。

明治時代に、この本を稲葉家の蔵書とした経緯は不明ですが、緻密な絵画や本の質感の良さから、自らの物としたのかも知れません。

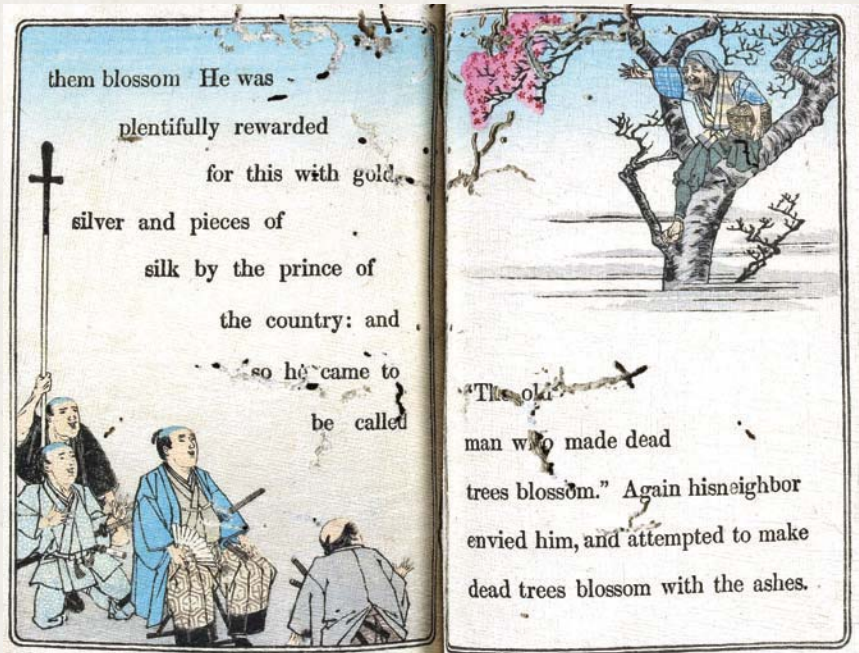
問合せ先 文化・文化財課



桃太郎(英語版)の表紙



花咲か爺さん(英語版)の表紙



爺さんが花を咲かせて殿様に見せている場面

発行／白杵市(大分県白杵市大字白杵72番)

編集／白杵市役所市長室(☎0967-21-8311) / ホームページアドレス / <http://www.city.usuki.oita.jp/> / 毎月一回発行 印刷／うすき印刷株式会社